



吹雪分科会の報告

日 時：平成 22 年 9 月 27 日 16:00～18:00
会 場：東京エレクトロンホール宮城 603 会議室

参 加 者：41 名

以下の通り、講演と吹雪観測計器に関する話題提供及び討議、分科会活動に関する議論を行った。

講演 (2009/2010 冬期の吹雪災害事例報告)

演 題：北海道南部えりも町での災害事例 (1 月)

講演者：吾田洋一氏、伊東靖彦氏 (土木研究所寒地土木研究所)

演 題：新潟平野での災害事例 (2 月)

講演者：佐藤 威氏 (防災科学技術研究所雪氷防災研究センター)

昨冬期に発生した吹雪災害について、北海道と新潟の事例報告が行なわれた。質疑応答では、会場から多くの意見や質問があり活発な議論が交わされた。

北海道えりも町の国道 336 号の吹雪災害は、道路上の視程障害や吹きだまりの影響で車両が数十台立ち往生したもので、当時の気象状況と道路構造や対策施設の関連性等について議論がなされた。

新潟の吹雪災害事例については、新潟在住の複数の会員から、新潟における吹雪障害の実情や当時の状況に関して詳細なコメントがあった。また防災関係者からは新潟県の吹雪対策の現状についての質問などが寄せられた。

フリーディスカッション

主題：吹雪の計測に関して

昨年度に引き続き、吹雪観測手法に関する議論を行った。今回は吹雪の研究や調査に用いられる「計測機器」について、分科会員から 3 件の話題を提供いただき、ディスカッションを行った。

(1) 吹雪粒子計 (SPC) の開発

石丸民之永氏 (新潟電気株式会社)

(2) 3D レーザースキャナによる吹きだまり計測

飯沼弘一氏 (野外科学株式会社)

(3) 北海道石狩吹雪実験場における視程計測比較 佐藤 威氏 (防災科学技術研究所)

吹雪粒子計 (SPC) は空中を移動する吹雪の量を計測する計器で、かなり前から使用されているものであり、その開発に携わった石丸氏より開発経緯や特徴などをお話しいただいた。

3D レーザースキャナは測量の分野において最近使われている計器で、それを吹きだまり形状の計測に応用した事例を紹介いただいた。

さらに複数の種類がある視程計について、その比較観測を北海道石狩で実施した結果を紹介していただいた。

これらの報告について、会場からは今後の吹雪研究や調査を実施する立場から、メリット・デメリットを中心に、様々な質問や意見がだされ議論がなされた。今回のディスカッションの結果が、今後の吹雪計測をより良いものにするための一つのきっかけになると感じた次第である。

総 会

以下の議事に関して審議を行った。

1. 前年度事業報告と監査報告

- (1) 講演会開催
- (2) 吹雪分科会ホームページの開設
- (3) メーリングリスト運用

2. 今年度事業計画

- (1) 講演会開催
- (2) メーリングリスト運用
- (3) その他

懇親会

総会修了後、例年通り懇親会を行った。今回は、平田賞を受賞した杉浦幸之助氏と、日本雪工学会学術賞を受賞した富永禎秀氏の受賞祝賀会をかねて、盛大なものとなった。

(吹雪分科会幹事 大槻政政)

(2011 年 1 月 26 日受付)